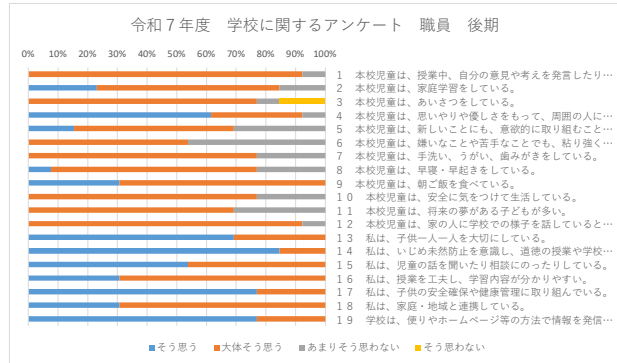
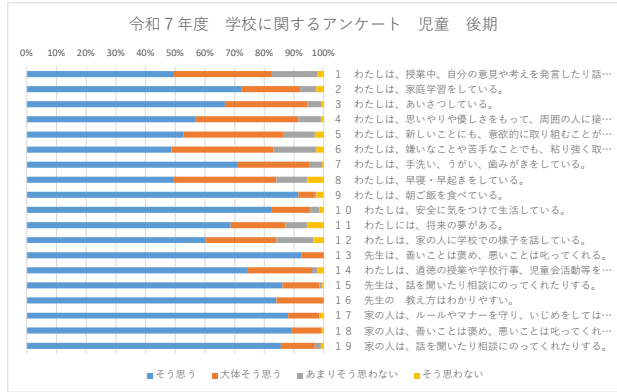


令和7年度 浜松市立北浜東小学校 後期 学校評価

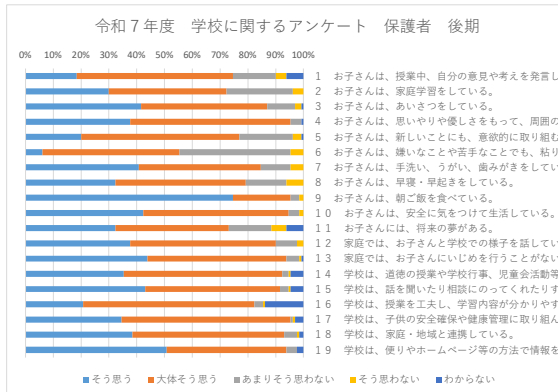


2 学校関係者評価 (1/29 (木) 開催)

- 小集団ではのびやかに考えを声に出して発することができるが、大きな集団になると黙ってしまうのは自信がないからではないか。
- 優しい子は多いが、いじめ報告を見ると他者意識をもつことや思いやりの心を育むことは、今後ますます重要になる。
- 高学年になると「新しいことに意欲的に取り組む」や「嫌いなことや苦手なことで、粘り強く取り組む」ことについての評価が低くなる傾向にあると思う。一方、低学年の子供は「やってみよう」「できるようになりたい」といった意欲が高くなるのではないか。
- アンケートを通して、子供がいじめられていることを伝えられたり、教師が実態をつかむことにつながっていたりするのはいいことだ。

3 今後の改善策

- 1 について、「伝えたい・知りたい」という気持ちをもてるような授業や活動を計画していく。その上で、「その子なりの表現で」伝えられる場を設けていく。
- 4 について、自他を大切にしていける心をさらに育てていくために、意図的に協働的な活動を設定するなど構造的エンカウンターを充実させていく。
- 5 について、活動との出会いや導入を工夫し、興味・関心を高めていく。また取り組みの過程を教師や保護者が価値付けすることで、新しいことや苦手なことも取り組めるように励ましていく。
- 6 について、短期的・長期的な自己目標設定場面を意図的に設けた上で、振り返りの時間を充実させていくことで、その子なりの成長を見つめられるようにする。
- 1 4 のいじめ対策について、引き続きいじめアンケートを定期的に行うとともに、いじめの起こりにくい環境づくり、いじめの早期発見・早期対応に組織的に取り組んでいく。



○ 結果 R7前期の割合 → R7後期の割合

「1 学習中、自分の意見や考えを積極的に発言したり話し合ったりしている。 目標80%」	児童	81.9% → 82.6%
	保護者	76.5% → 74.6%
	職員	100% → 92.3%
「4 思いやりや優しきをもって、周囲の人に接することができる。目標90%」	児童	91.7% → 91.5%
	保護者	92.6% → 95.4%
	職員	100% → 92.3%
「5 新しいことにも、意欲的に取り組むことができる。目標80%」	児童	87.7% → 86.6%
	保護者	77.9% → 76.9%
	職員	76.9% → 69.2%
「6 嫌いなことや苦手なことで、粘り強く取り組むことができる。目標80%」	児童	78.4% → 83.1%
	保護者	54.4% → 55.4%
	職員	46.2% → 53.8%

1 自己評価

《児童の傾向》

- ・どの項目も学校目標も達成することができた。これは授業を通して、児童に表現の場を意図的に設定し、取り組んできた結果と考えられる。
- ・昨年度の学校運営協議会でアドバイスいただき、5と6の2つの項目に分けた。6に関しては大人との差はあるものの前期より向上することができた。目標を明確にすることで児童たちは様々な活動に意欲的に取り組むことができたと考えられる。
- ・14のいじめ対策について、96%の児童はいじめ防止・対応について肯定的な意見をもっている。職員にすぐ相談できる関係づくりが早期発見・解決につながっていると考えられる。

《保護者の傾向》

- ・どの項目も前期と大きな変化は見られなかった。6に関しては児童と数値に大きな差があるが、児童への期待値の大きさによるものと考えられる。
- ・14のいじめ対策について92.3%の保護者はいじめ防止・対策について肯定的な意見をもっている。担任だけでなく、複数職員と相談できる体制が早期解決につながっていると考えられる。